

NEWS RELEASE (2021年9月24日リリース) 取材依頼

**-隠れ続けて190年-
ゴマサバから新種の“珍”寄生虫を発見**

報道機関 各位

平素より本学の報道に関しては大変お世話になっております。

この度、本学大学院理工学研究科の上野 大輔准教授らの研究チームは、鹿児島県南さつま市笠沙町で漁獲されたゴマサバから、新種の寄生虫を発見、報告しました。ゴマサバは重要な漁獲物として日本を含む各国で古くから利用されており、アニサキスを始めとした寄生虫についてもよく研究されています。その中で、今回全く新しい種が発見された意義は大きいものがあります。本成果は、2021年9月16日付の英国の国際誌 *Systematic Parasitology* (システムティック・パラサイトロジー) (オンライン版) に掲載されました。つきましては、是非とも取材・報道いただきますようご案内申し上げます。

研究の詳細につきましては、次ページ以降の資料をご確認下さい。

また、取材を希望される際には事前に下記担当者までご連絡ください。取材の際には新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施いたしますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

■国立大学法人 鹿児島大学大学院 理工学研究科

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-35

理工学研究科・准教授

上野 大輔 (うえの だいすけ)

E-mail: duyeno@sci.kagoshima-u.ac.jp

TEL: 099-285-8167 / 090-9136-8494

ゴマサバから新種の“珍”寄生虫を発見

概要

鹿児島県南さつま市笠沙町片浦沖で漁獲されたゴマサバから、新種の寄生虫が発見、記載された。本種はゴマサバの頭の骨を通る細い管の中に暮らす小さな寄生虫で、人には無害である。食べても腹痛の原因にはならない。*Colobomatus itoui* (コロボマータス・イトウアイ)、標準和名：カクレンボウと命名された。ただでさえ隠蔽的な場所に暮らすことに加え、発見率もゴマサバ 50 匹につき 1 匹程度と大変低い。本成果は、鹿児島大学と広島大学の共同チームにより、英国の寄生虫学専門誌 *Systematic Parasitology* (システマティック・パラサイトロジー) のオンライン版にて、2021 年 9 月 16 日付けで発表された。

研究体制

この成果は、上野 大輔 (鹿大院理工学研究科・准教授) と長澤 和也 (広島大学・名誉教授) による共同研究によるものである。上野が標本の採集と観察を行い、水産魚類の寄生虫に詳しい長澤との議論を経て、新種として記載・報告を行った。

寄生虫の解説

今回ゴマサバから見つかった新種の寄生虫は、微小な甲殻類の 1 種である (メスの体長約 5 mm、オスは未発見)。ゴマサバの頭部を構成する骨の中を通る細い管、側線の内部を棲み場所とする珍しい寄生虫である。鹿児島県南さつま市笠沙町沖で漁獲され、笠沙片浦漁港へ水揚げされたゴマサバを調査したところ、約 50 匹に 1 匹という大変低い確率で見いだされた。本種が属するカクレムシ科の他の種は、いずれも宿主として利用する魚類が限定的である。そのため、カクレンボウも他の魚類に寄生する可能性は非常に低い。

発見の意義

ゴマサバは言うまでも無く重要な水産資源であり、各国で漁獲・利用されている。そのため、寄生虫についても古くから研究がなされ、多くの寄生虫の存在がすでに明らかとなっていた。そうした中、今回全く新しい寄生虫が発見されたことは大変珍しい事例である。ゴマサバが種として記載されたのが 1831 年であるが、それに遅れる事 190 年を経ての発見となる。この新種の寄生虫は、鹿児島県の海洋生物研究の進展に多大に貢献している伊東 正英氏 (笠沙町漁業協同組合) に因み *Colobomatus itoui* (コロボマータス・イトウアイ) と命名された。また、極めて隠蔽的な場所に隠れ住むこと、多くの寄生虫学者の目に触れることなく現在に至った隠れ上手な性質にちなみ、標準和名にはカクレンボウが提唱された。大変珍しい寄生虫であり、鹿児島県の海の豊かさを象徴する一例と位置付けることができる。

食品衛生上の問題にはならない

“サバ”の寄生虫と言えば線虫類のアニサキスが有名だが、甲殻類であるカクレンボウとは全く異なる系統に属する。カクレンボウは人には無害で、食べても腹痛の原因にはなり得ないため食品衛生上の心配に繋がることは全く無い。新たな寄生虫の発見というと、魚の健康状態や環境悪化を懸念する声も上がるかもしれない。しかし、これは寧ろ海の環境、魚の健康状態共に良い証と捉えて良いだろう。人が食べておいしい魚は、寄生虫にも美味かもしれない。サバからは、他にもサバメダマジラミ、サバウオジラミと言った甲殻類の寄生虫も見つかるが、いずれも人には無害である。

発表論文

Daisuke Uyeno & Kazuya Nagasawa. 2021. Three species of copepods parasitic on the blue mackerel *Scomber australasicus* Cuvier (Actinopterygii: Perciformes: Scombridae) from southern Japan, with description of a new species *Colobomatus itoui* n. sp. (Cyclopoida: Philichthyidae). Systematic Parasitology, published online.

参考図 鹿児島大学上野大輔提供

笠沙片浦魚港に水揚げされたゴマサバ (左) とそれから発見された新種カクレンボウの雌成体 (右)、体長約 5 mm。

